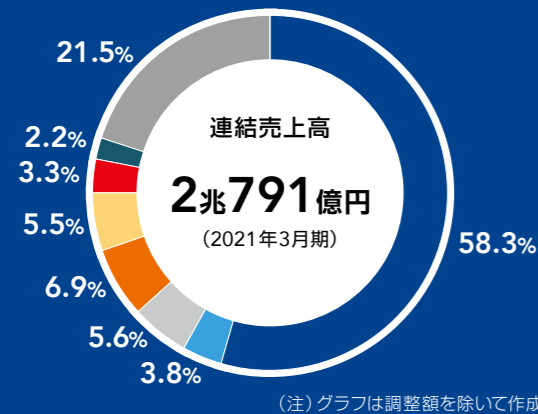


# At a Glance

日本通運グループは、サプライチェーンを効率化・高度化し、モノの経済的価値を高めるため、日本・世界各地において、多様な輸送モードを駆使したさまざまなサービスを提供しています。

■ セグメント別売上高構成比



■ セグメント別売上高/セグメント利益

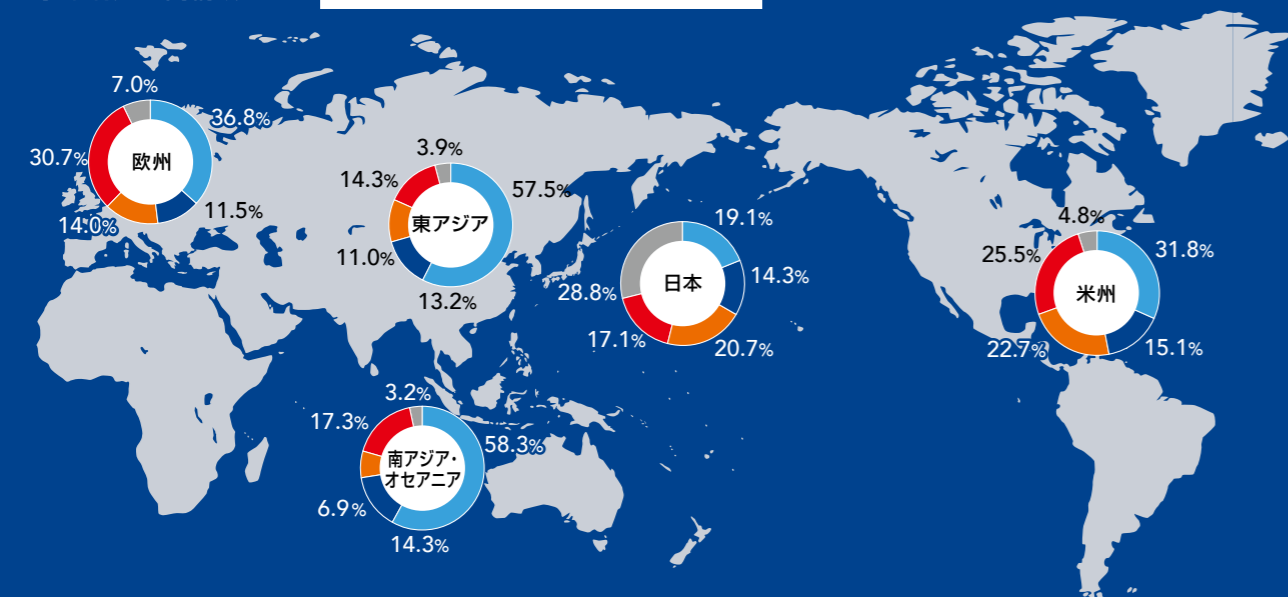
(単位: 億円)

	売上高	セグメント利益 (営業利益)
ロジスティクス		
日本	12,128	519
米州	781	4
欧州	1,171	34
東アジア	1,436	84
南アジア・オセアニア	1,147	98
警備輸送	692	△9
重量品建設	458	52
物流サポート	4,478	136

■ 主要事業・製品およびサービス

セグメント	主要事業											主要製品及びサービス
	鉄道利用 運送業	貨物 自動車 運送業	利用 航空 運送業	海上 運送業	港湾 運送業	倉庫業	旅行業	工場内 運搬 作業	情報 資産 管理業	不動 産業	重量物 運搬 架設 設置業	
ロジスティクス												鉄道取扱、自動車運送、積合せ貨物、航空運送、旅行、海運、引越・移転、倉庫・流通加工、工場内作業、情報資産管理、不動産賃貸、美術品、警備輸送、重量品建設
日本	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
米州		●	●		●	●	●					航空運送、海運、倉庫・流通加工、引越・移転、自動車運送、旅行
欧州	●	●	●		●	●	●					鉄道取扱、航空運送、海運、倉庫・流通加工、引越・移転、自動車運送、旅行
東アジア	●	●	●		●	●						鉄道取扱、航空運送、海運、倉庫・流通加工、引越・移転、自動車運送
南アジア・オセアニア	●	●	●		●	●					●	鉄道取扱、航空運送、海運、倉庫・流通加工、引越・移転、自動車運送、重量品建設、旅行
警備輸送	警備業、貨物自動車運送業											警備輸送
重量品建設	重量物運搬架設置業											重量品建設
物流サポート	物流機器・包装資材・梱包資材・車両・石油・LPガス等の販売業、リース、車両整備、保険代理店業、不動産の仲介・設計・監理・管理業、調査・研究業、ロジスティクスファイナンス事業、自動車運転教習業、労働者派遣業											リース、石油等販売、その他販売、不動産、ファイナンス、その他

■ 事業別売上高構成比



## セグメント情報



### 日本

#### 事業概要

鉄道、自動車、海運や航空などのさまざまな輸送モード、全国に広がるネットワークを駆使し、安全・品質・コンプライアンスへの高い意識とお客様第一の姿勢を持った社員がお客様に最適な物流サービスを提供しています。さらに、国内トップの倉庫面積を誇る物流センターや実績とノウハウを結集した物流情報システムを駆使し、企業間の物流から引越・移転、美術品や医薬品といった特殊な物品の輸送まで、多様なニーズに最適なソリューションを提供しています。

#### 2020年度の主な取り組み

##### RPA導入の推進で労働時間を72万時間削減

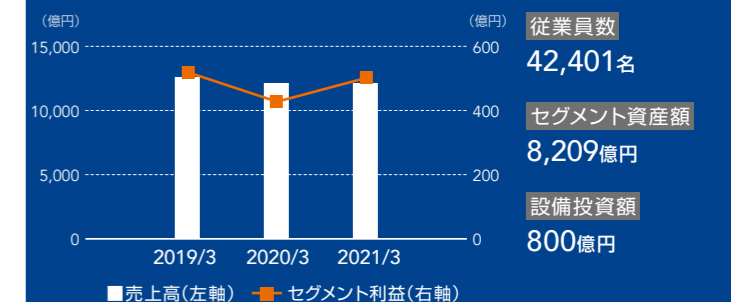
日本国内の事業所で、2021年3月までにRPA導入の推進により、定型業務にかかる作業時間を年間72万8,721時間削減しました。少子高齢化による労働力不足や働き方改革など社会環境が大きく変わる中で、生産性向上の取り組みは各企業にとって大きな課題となっています。また近年ではIT技術の進化により、RPAの利便性は飛躍的に向上しています。このような状況の中、当社は新しい働き方を実現すべく、2018年3月にRPA推進の取り組みを開始し、2021年度末までに年間100万時間削減という目標を掲げて活動を実施してきました。その結果として、2021年3月までに目標の70万時間を超える72万8,721時間を達成し、2021年度末までの目標にあと27万時間となりました。

##### 第2回海運モーダルシフト大賞を受賞

2021年3月、エコシップ・モーダルシフト事業実行委員会(国土交通省海事局が協力)から「海運モーダルシフト大賞」を五十鈴東海株式会社(社長:岩品友幸)と共同受賞しました。第2回目となる今回は、昨年度の当社京都支店に続き、名古屋支店が受賞しました。

日本通運は、課題となっているCO<sub>2</sub>削減やトラックドライバー不足への施策として、無人化が可能なセミトレーラーによるフェリーを利用した海陸一貫輸送を提案しました。それを受け、五十鈴東海株式会社は、納品先が地球環境を考慮する大手自動車メーカーであることや今後の東北地区への輸送量増加を考慮し、製品輸送の大半は「名古屋港→仙台港(太平洋フェリー株式会社運航)」を利用したフェリー輸送に切り替えるモーダルシフトへ踏み切りました。また、静岡と岐阜にある出荷拠点をより名古屋港に近い岐阜の拠点へ集約することで、陸上輸送距離を減らし、CO<sub>2</sub>削減とともにドライバーの拘束時間が短縮され、より安定した輸送を実現しました。

■ 売上高/セグメント利益の推移



#### 戦略と施策

重点産業(電機・電子、自動車、アパレル、医薬品、半導体)への営業拡大と同時に、業務の効率化により生産性向上を図るなど、持続的な成長を目指し取り組んでいます。顧客起点のアプローチを強化し、アカウントマネジメントによる顧客貢献領域拡大や、顧客サプライチェーンの変化を機会とした新規業務の獲得に取り組んでいます。また、ニーズが集中する東名大都市圏へ経営資源を集中して営業を拡大するとともに、地域の主要顧客のニーズに応じたサービス提供にも注力しています。

#### 2021年3月期業績概況

航空貨物の取扱数量は増加しましたが、自動車運送の取扱減少等により、売上高は1兆2,128億円と前連結会計年度に比べ7億円、0.1%の減収となりました。一方、航空貨物の取扱数量の増加や燃油単価の減少等により、営業利益は519億円と前連結会計年度に比べ91億円、21.3%の増益となりました。

## セグメント情報

### 米州

#### 事業概要

米国、カナダ、メキシコ、ブラジル、コロンビアに拠点を設置し、米州をつなぐネットワークサービスを展開しています。また、当社が現地法人を置かない国での輸送も代理店を通じてのサービスの提供が可能です。自由貿易協定を結ぶ米国、カナダ、メキシコの3カ国を縦断するクロスボーダー輸送体制を構築するなど、地域の特性を生かしたソリューションを提供し、お客様のサプライチェーンマネジメントをサポートしています。

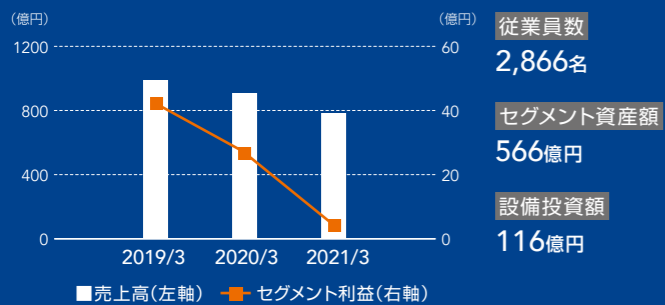


### 欧州

#### 事業概要

ドイツやオランダなど欧州主要各国、ロシア連邦、アラブ首長国連邦に拠点を展開。2020年1月にハイファッションを中心とするアパレル関連物流に実績のあるグループ会社をイタリア日通に統合し、国際輸送から商品保管、市場への配送までの一貫したロジスティクスサービスを展開しています。また、アフリカのケニア・モロッコにも拠点を開設、新興地域への展開を積極的に行っています。

#### 売上高／セグメント利益の推移



#### 戦略と施策

米州の自動車産業集積地を結ぶ長距離クロスボーダー輸送体制を生かし、自動車産業の生産物流ネットワークへの取り組みをさらに強化していきます。重点産業である医薬品や生鮮品産業に関しては、GDP認証取得や温度管理機能の整備など、自社物流拠点での施設整備・機能強化を進めることで、さらなる取引の拡大を図っていきます。

また、非日系顧客への営業拡大を進めて顧客基盤を強化するため、人材の拡充などの施策に取り組んでいます。

#### 2021年3月期業績概況

新型コロナウイルス流行に起因して、自動車産業関連を中心とした顧客の生産活動停止の影響により売上が大きく落ち込み、生産再稼働に伴う取扱数量の回復、拠点の統廃合および人員削減などの効果があったものの、生産活動停止の影響が大きく、売上高は781億円と前連結会計年度に比べ129億円、14.2%の減収となり、営業利益は4億円と前連結会計年度に比べ23億円、82.6%の減益となりました。

#### 2020年度の主な取り組み

##### 米国物流会社の出資持分取得(子会社化)

当社は、米国日通を通じ、2020年9月に米国の物流会社MD Logistics, LLC. およびMD Express, LLC. (以下、併せて「MD社」)の全出資持分を取得し、子会社化の手続きを完了しました。

MD社では、医薬品取り扱いに係る許認可・ガイドラインに則した管理体制の下、-40℃から+25℃の保管、包装などの流通加工業務を担い、お客様ごとのニーズに応じたテイラーメイド型のサービスを強みとしています。このたびMD社の子会社化により、医薬品需要では世界全体の約4割を占める米国において米国内ロジスティクス機能を獲得しました。今後は、当社グループの国際間輸送ネットワークとの結合によって一貫物流を提供し、グローバル化するお客様のサプライチェーンを支援してまいります。

##### シカゴ・ロジスティクス・センターを竣工

米国日通は、2021年3月にイリノイ州ウッドデール市に「シカゴ・ロジスティクス・センター」を建設しました。今般開設した新拠点では、自動車関連のお客様には荷姿変換や検品などの付帯作業やクロスドック等といった多様なニーズにお応えすることが可能となります。オヘア国際空港近郊の既存の大型自社施設とともにロジスティクス機能を強化し、中西部地域の最重要拠点としてさらなる事業の拡大を目指します。

また、新拠点にニューヨークにあった米国日通本社を移転し、本部門、営業部門、作業現場一体型の拠点とすることで、事業展開のスピード化・効率化を図り、米国内事業の強化を推進してまいります。



#### 2020年度の主な取り組み

##### オランダ・ヘルダーラント州にロジスティクスセンターを設立

オランダ日通は、オランダ南東部ヘルダーラント州ネイメーヘンに「ネイメーヘンロジスティクスセンター」を開設しました(営業開始日2021年3月)。

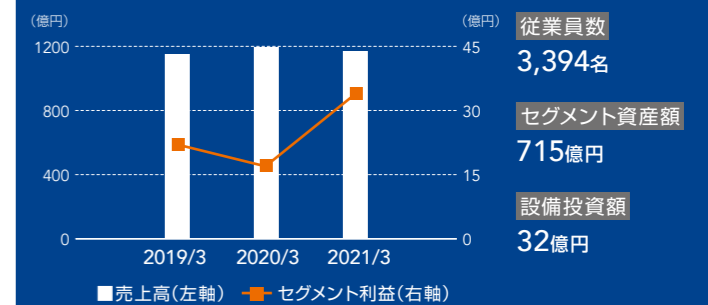
オランダは、仏・独・英といった欧州最大消費地の中心に位置し、航空・海上のゲートウェイや域内輸送網が発達している上、非居住者通関制度や優遇税制も充実しており、多くのお客様の物流拠点として選ばれています。なかでも、オランダ南部は、ドイツ最大のマーケットに近接しているなど物流拠点を構えるには最適な立地です。

同センターは、小型建設機械を開発・製造・販売する株式会社竹内製作所の欧州パーツセンターとして、保管・配送業務などお客様のニーズにお応えしてまいります。

オランダ日通は、同センターの設立により同国で20万平米を超える倉庫を有することとなり、オランダ南部でのさらなるロジスティクスビジネスの拡充を図ってまいります。



#### 売上高／セグメント利益の推移



#### 戦略と施策

中東欧・中東・アフリカまで及ぶ広範な自社ネットワークを生かし、重点産業であるハイファッション・自動車・医薬品産業への営業拡大を進めるとともに、非日系企業基盤の拡大に向けた営業体制の確立を進めています。ハイファッションへの取り組みではライフスタイル産業へも営業を拡大し、存在感を強めています。中欧鉄道による鉄道貨物の拡大や欧州経由のアフリカ向けクロスボーダー輸送の開発などに加え、ハブポートの既設拠点での倉庫配送業務といった事業領域の拡大にも取り組んでいます。

#### 2021年3月期業績概況

自動車関連や医療機器関連の航空輸出貨物の取扱数量は増加しましたが、倉庫配送や自動車運送の取扱いが減少したことにより、売上高は1,171億円と前連結会計年度に比べ22億円、1.8%の減収となりました。一方で、倉庫の減床ならびに賃料値下げなどのコスト削減により、営業利益は34億円と前連結会計年度に比べ16億円、91.5%の増益となりました。

## セグメント情報

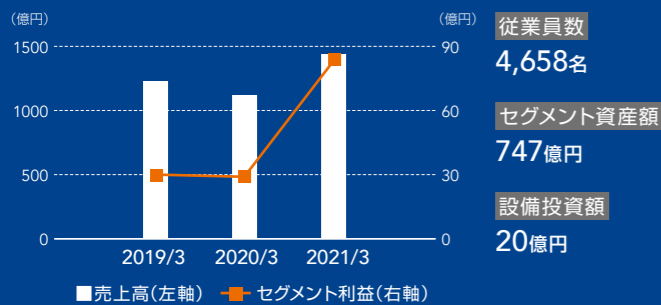
### 東アジア

#### 事業概要

中国、香港、台湾、韓国の緊密な経済圏にネットワークを構築しています。内需の規模が大きい中国では、主要都市を結ぶ幹線輸送などの自動車輸送網を上げ、電化製品・自動車部品を中心に、国内・域内物流の拡充に取り組んでいます。

また、中国・上海～シンガポール間の陸路輸送ルートの確立や、中国～欧州間の鉄道による輸送サービス等、域外とのクロスボーダー輸送体制の構築も進めています。

#### 売上高／セグメント利益の推移



#### 戦略と施策

中国国内の物流事業拡大策として、自動車産業では、日系だけでなく、非日系メーカーへの取り組みを拡大しつつ、EV化に伴うサプライチェーンの変化への対応も強化していきます。医薬品に関しては、物流拠点の施設整備等による品質向上を図っています。また、チャイナグローバル企業の取り込みによるシェアの拡大にも取り組んでいます。域外では、中欧鉄道を活用して、利便性の高いクロスボーダー輸送を展開すると同時に、沿線にある中央アジアへの事業拡大にも積極的に乗り出しています。

#### 2021年3月期業績概況

中国国内における経済活動の再開により、マスクなどの感染症予防関連品、パソコン関連の精密機器、電子部品などの緊急出荷やゲーム機関連の航空貨物のチャーター輸送増加の効果もあり、売上高は1,436億円と前連結会計年度に比べ316億円、28.2%の増収となり、営業利益は84億円と、前連結会計年度に比べ54億円、182.2%の増益となりました。



#### 2020年度の主な取り組み

##### 中国ベトナム間クロスボーダー輸送サービスを開始

東アジアブロックは、中国とベトナムを結ぶ国際鉄道を利用した中国・蘇州発ベトナム・ハノイ向けクロスボーダー鉄道輸送サービスを2021年2月24日から開始しました。

従来、中国から東南アジア向け海上輸送は本船のスペース不足の影響を受け不安定となっており、より安定したリードタイムの輸送の実現を目指した新たな鉄道輸送サービスで、海上輸送やトラック輸送混雑時のBCP対策にもつながる環境に優しい商品となっております。

今後は、ベトナム発中国向けの鉄道輸送サービスの開発を進めます。また、鉄道とその他の輸送モードを組み合わせた輸送サービスを検討してまいります。



##### 中国で日系企業として初のGDP認証を取得

中国日通は、2021年3月29日を発効日とし、上海浦東空港CFSにおいて、医薬品の適正流通基準であるGDP (Good Distribution Practice) の医薬品の短期保管サービスの提供に関し、中国における日系企業として初めて認証を取得しました。

世界第2位である中国の医薬品市場は、人口の高齢化や一人当たり所得の増加、それに伴う医療費の増加に支えられて順調に拡大しており、今後さらなる成長が見込まれます。高度化・多様化する医薬品の物流ニーズにお応えするサービスを拡充し、今後も経営計画において重点産業と位置づける医薬品の取り組みを強化してまいります。



#### 2020年度の主な取り組み

##### マレーシア国内輸送サービスのGDPを取得

マレーシア日通は、2021年1月14日を発効日とし、クアラルンプール国際空港支店において、同国国内輸送の提供に関する医薬品適正流通基準であるGDP (Good Distribution Practice) の認証を取得しました。

近年国民の健康志向が高まるマレーシアにおいて、製薬業界は政府によって成長と発展が期待される新しい成長分野となっています。マレーシア日通では、国内の病院に提供する医薬品配送業務を受託するとともに、クランロジスティクスセンター、クアラルンプール国際空港支店では既に医療機器物流の品質基準であるGDPMDの認証を取得しており、医療機器の取り扱いを増やしています。

##### タイ現地法人2社の事業統合を実施

2021年4月、タイ日本通運株式会社、タイ日通ロジスティクス株式会社の中核2社の事業統合を行いました。

この事業統合により、各輸送モードが一体となった組織営業体制に移行し、タイ日通グループのさらなる経営の効率化、営業体制の強化を目指すとともに、変化を続けるお客様のニーズに合ったさまざまなサービスを提供してまいります。

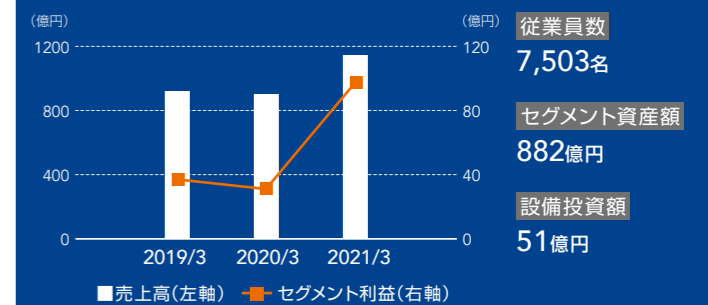


### 南アジア・オセアニア

#### 事業概要

シンガポールやタイなどのASEAN9カ国とインド・オーストラリアなどに拠点を展開しています。経済連携の強化により域内貿易がますます活発化する傾向にある中、さまざまな輸送ルート・輸送モードで結ぶクロスボーダー輸送ネットワークを構築、地域最大の経済圏インドでは、自動車関連部品の効率集約と配送を行うミルクランサービスやJIT物流を提供、サプライチェーンの最適化に取り組んでいます。また、医薬品物流に対するGDP認証の取得や温度管理輸送サービスを拡充しています。

#### 売上高／セグメント利益の推移



#### 戦略と施策

域内各国の経済連携により拡大する国際物流需要と、購買力向上による消費財需要の高まりに対して、重点産業である自動車、電機・電子、半導体、医薬品、アパレルに日用雑貨を加えた各産業への営業強化および多機能倉庫を活用した新規・高品質サービスの開発による域内営業基盤の確立に取り組んでいます。また、インドは域内最大の人口を抱え、国内経済の成長ポテンシャルも非常に高いことから、今後も高まりが予想されるロジスティクス需要の取り込みを図っていきます。

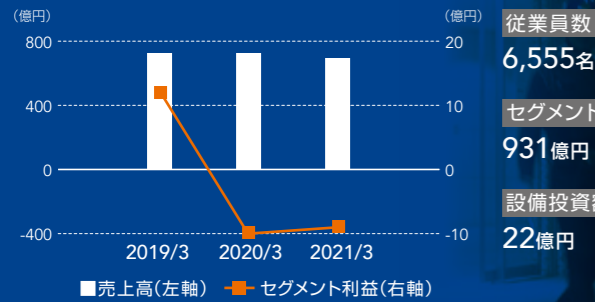
#### 2021年3月期業績概況

タイからのハンドソープなど衛生用品の航空貨物のチャーター輸送増加や、顧客の生産活動再開に伴う自動車関連、電機電子関連などの貨物需要の取り込みにより、売上高は1,147億円と前連結会計年度に比べ246億円、27.3%の増収となり、営業利益は98億円と前連結会計年度に比べ67億円、213.1%の増益となりました。

## セグメント情報

### 警備輸送セグメント

#### ■売上高/セグメント利益の推移



従業員数  
6,555名

セグメント資産額  
931億円

設備投資額  
22億円



#### 事業概要

1965年の事業開始以来、貴重品運搬警備のパイオニアとして、現在に至るまで国内No.1のシェアを占めています。日本通運の警備員のハイレベルな警備によって金融機関の輸送、量販店や飲食店向けに集配金サービスなどを提供しています。また、輸送だけでなく、オンライン入金機CSD (Cash Safety Delivery) サービスなどに対するニーズにも応えています。

今後も、培った技術を進化させ、現金物流をトータルサポートするさまざまなソリューションを展開していきます。

#### 2021年3月期業績概況

売上高については、新型コロナウイルスの影響により公営競技、オンライン入金機CSD (Cash Safety Delivery) サービス、ATM装填業務の取扱いが大きく減少して12億円の減収となり、金融機関の店舗統廃合や集配先店舗減等による警備輸送業務の減少により、売上高は692億円と前連結会計年度に比べ33億円の減収となりました。一方、オペレーションの効率化(コースの見直し等)によるコスト削減に取り組んだ結果、営業損失は9億円と前連結会計年度に比べ1億円の増益となりました。

### 2020年度の主な取り組み

#### 風力発電輸送で国内トップシェア

陸上風力発電設備の建設地は山の稜線近くにあるような場合が多く、長さ40～60mものブレード(羽根)や重さ数十tにもなるナセル(発電機)を、障害物を避けながら輸送するには、高度な技術が必要になります。日本通運では、風力発電設備用に独自開発したトレーラー(ブレード起立装置)や経験豊かなスタッフによる綿密な輸送計画によって、この困難を乗り越えています。一方で洋上風力につきましては、日本国内では初めてとなる商用洋上風力発電事業(秋田能代)の港湾業務を受注し、現在施工中であります。これからは陸上風力だけでなく洋上風力も含めて国内トップシェアを目指します。

今後も風力発電施設等の輸送・据付業務を通じて再生エネルギー普及に貢献していきます。

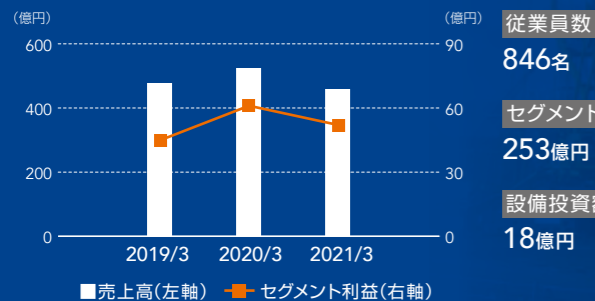


#### TAO(The University of Tokyo Atacama Observatory) Project

TAOプロジェクトは、南米チリ北部アタカマ砂漠の標高5,600mのチャナトル山山頂に、世界最高水準の口径6.5m赤外線望遠鏡を建設するプロジェクトです。東京大学を中心とした研究チームが、宇宙初期の銀河形成から太陽系外惑星形成までの謎に迫ろうとする計画です。重機建設事業部は東京大学より望遠鏡設備について、日本・米国からチャナトル山山頂までの輸送工事を請負い、現在実施しています。山頂までの急勾配な斜面に、大型貨物を輸送するための道路設計協力や、チリ国内輸送会社との共同作業による地域貢献など、重機建設事業部のノウハウが十分に発揮されています。

### 重量品建設セグメント

#### ■売上高/セグメント利益の推移



従業員数  
846名

セグメント資産額  
253億円

設備投資額  
18億円



#### 事業概要

発電所、石油化学プラント、設備機器の輸送から据付組立までの全てを一貫して行っています。その他、半導体の製造工場のクリーンルーム内設備といった精密機器の運搬・搬入・据付にも、独自の技術で対応しています。環境への配慮から近年需要が高まっている風力発電設備の運搬・据付業務には1999年から本格的に乗り出しており、現在国内にある風力発電設備の約70%は当社が輸送・据付を行い、今後も取扱いを伸長させる計画です。

#### 2021年3月期業績概況

特に国内において、風力発電関係輸送の取扱いが減少したこと等により、売上高は458億円と前連結会計年度に比べ64億円、12.4%の減収となり、営業利益は52億円と前連結会計年度に比べ9億円、15.7%の減益となりました。

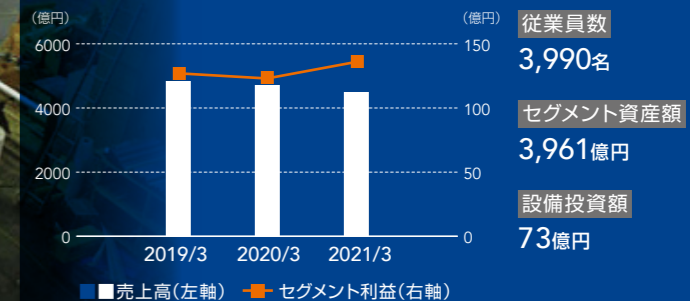
2020年度および2021年度は、設計基準の見直しの影響で例年よりも風力案件が減少しますが、2022年度以降は北海道稚内地区を中心とした多数の案件を予定しています。

#### 事業概要

物流という本業に関連した、あるいは本業によって広がったネットワークを活用した事業を展開しています。梱包資材から車両、石油・LPガス等、輸送に欠かせない各種商品の販売、車両の整備、保険代理店業務を行う日通商事株式会社や国内外のグループ会社が物流ニーズの調査・研究業、ロジスティクスファイナンス事業、労働者派遣業、不動産業等を行っています。

### 物流サポートセグメント

#### ■売上高/セグメント利益の推移



従業員数  
3,990名

セグメント資産額  
3,961億円

設備投資額  
73億円



#### 2021年3月期業績概況

石油販売単価が低下したことに加え、ロジスティクス・サポート事業において、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、輸出梱包業務の取扱いが減少したことなどにより、売上高は4,478億円と前連結会計年度に比べ233億円、5.0%の減収となりましたが、各種コスト削減策等の効果により営業利益は136億円と前連結会計年度に比べ12億円、10.4%の増益となりました。